

うちの犬(ボシ、キャリアダ)を散歩して思う、よその犬はさすが優雅に歩いてるのにボシは右行、左行、
地もはうように回ったり、ほんとにせわしない。あちこち行こうとすんな。ったく誰に似たのやら!

自問自答

その2

令和5年4月13日(木)

広島市立己斐上中学校 進路通信

発行人: 15日(土)は テニス部・早速

団体戦・市大会に連れてってくれるかな...



委員や係の決まった
皆さんへ

アメリカのある鉄道会社のお話です。

ある鉄道会社の社長が、線路の修理現場を視察したとき、一人の従業員が親しげに話しかけてきました。「久しぶりじゃないか。君もずいぶん出世したもんだね。君が社長になると聞いたときは本当に驚いたよ!!」

その男の人は 10 年前に社長と一緒に作業員として働いていた友人でした。友人は続けます。「10年前は50ドルの日給をもらうために一緒に働いていたのにね。今では社長だなんて。君も変わったね。」

さて、ここで社長は何て答えたと思います?

「そうだったのか! 君は50ドルをもらうために働いていたのか! 私は10年前も今も、この鉄道会社のために、そして世の中の人々が快適な旅をすることができたらと思って働いているんだよ,,,」

50ドルをもらうために働いていた友人は、今も昔も50ドルのためにしか働けないんです。50ドル以上のものを得ることはできません。ところが社長は、10年前も今も「何のために」働くのかを考え、どうやったら世のため人のためになるかを考えています。 参考文献「私が一番受けたいココロの授業」比田井和孝 著

皆さんは何のためにその委員の仕事を、その係の仕事をするのですか?

この世の中に、いわゆる「雑用」なんてものはありません。必要だからその仕事があるのです。あなたが「雑用」と呼んだ時点で、その仕事はある意味「雑用」になってしまうでしょう。

皆さんが取り組むことになった委員や係、どうぞそのスペシャリストになってください。どうやったら自分がワクワクするかを考えながら、どうやったら周りのみんなが喜んでくれるかを考えながら取り組んでみてください。

私はそれを「仕事」ではなく「志事」と呼んでいます。「志事」をしていると基本的に毎日ホント楽しいです。そりゃしんどい時やつらい時もないわけじゃないけど、すぐに前向きな気持ちに切り替えられます。どうやったらワクワクできるかがベースですからね。

将来皆さんが働くようになったとき、「あなたの仕事は何ですか?」という問いに、どう答えるのかとても楽しみです。例えば先生になったとき、「あなたの仕事は何ですか?」と問われ、「教師です」という答えはいただけないなあ。それは仕事(志事)ではなく【職業】です。教師という仕事(志事)を通して、何がしたいのか、どうしたいのか、何のためにやっているのか、そういうことです。

私? もうわかってるでしょ。パッカーの育成に決まってるやん(笑)。

なんび おびの髪のはえざいにキズがあるんだらう。いえなと思ったら、どうやら寝ている時にポレか
(やめをもう同じベッドでねてる) バチバチ 本のあてをたたき。その時できたキズのよう

自問自答

その3

発行人:

毎晩のように。夜中の2時頃

令和5年4月17日(月)

広島市立己斐上中学校 進路通信

ムフッと起きて。顔をなめ始める...

もうホントやめてほしい... の



推薦と専願の話

先日皆さんに推薦と専願の話をしました。最後に話した「推薦・専願のために頑張るんじゃないよ。皆さんが前向きに取り組んだ結果、ついてくるものなの」って伝わったかな。

かつての教え子でYさんという女の子がいました。物静かな女の子で勉強はちょっと、、、苦手。運動の方もちょっと、、、でもね、Yさんが人を悪く言うのを聞いたことがない、そして掃除をする姿が人の心を打つというか、ただひた向きに、黙々と時間いっぱい、だれが見ていようが見てまいが(ほらっ、私、掃除してるでしょ! 見て見て! 的な雰囲気一切なし)取り組む、そんな女の子でした。

いよいよ進路選択の時期を迎えたとき、本人も保護者の方も「どこかこの成績で入れるところがあれば、、、」といった感じてした。本人にも一応行ってみたい学校はあったものの、推薦でも成績はギリギリ。

でもね、掃除に取り組む姿が人の心を打つんです。高校側にもそんな彼女の姿をありのままに伝えました。「確かに勉強は苦手です。一生懸命やってるけど苦手です。クラブで成績を残したわけでもない。でも掃除をする姿が美しいんです。ひたむきなんです。人のことを悪く言わない優しい子なんです」と。

すると高校側も「わかりました。そういう生徒さんの力にならせてください。」と、結局その子は推薦で希望する高校に見事合格。本人も保護者の方も喜んで卒業していきました。彼女は推薦・専願のために掃除をしたんじゃないんです。推薦・専願のために人の悪口を言わなかったんじゃないんです。ただ自分にできることをひた向きに取り組んだ。その結果、推薦という形で進路を切り拓いていったんです。

日本ってね、そういう国なんです。チャンスがゴロゴロ転がっていて、生きる姿勢っていうのかな、そういう美しさでいくらでも道を切り拓いていける、そういう国なんです。不平・不満を言い訳に使うのではなく、自分にできることを懸命にやってみる、そしたら助けてくれる人がたくさんいる、そんな国だと思います。

世界には残念ながら、負のスパイラル(ぐるぐると繰り返し、みたいな感じ)から、なかなか抜け出せない国もたくさんあります。本人の努力ではどうしようもない、いくら美しく生きようとしてもしてもなかなか救いの手が差し伸べられない、生きるだけで精一杯、そんな感じです。

ちなみにYさんですが、社会人になった彼女に偶然市内で再会したことがあります。高校進学後も変わらぬ姿で生活し、周りから愛され、応援されたのでしょね。推薦で大学にまで進学、当時就職が難しいといわれていた時代(若者が多く、採用が少なかった)に、無事就職もしていました。

成績やクラブの戦績、持っているお金や友達の数、そういった数値的なものを一切抜きにしたとき、自分自身は一体何者なのか、なにか語れるものはあるのか、どういう生き様なのか、そういったことを否が応(いやがおう=好む好まないに関わらず)でも考えてしまう、それもまたパッカー旅の魅力かもしれないなあ。